

「二重 -ing制約」について

林 高宣*

Takanori HAYASHI
The Doubl-ing Constraint

ABSTRACT

起動動詞の進行形にVingが後続することを許さない要因の一つは、Vingの継続性・反復性である。to Vは出来事の開始点に焦点を当てるため、起動動詞と共起しやすい。一方で継続、すなわち開始点や終結点への近接や反復の意味を持つVingは「開始」「終結」を表す起動動詞と共起しにくい。

さらに、「二重 -ing 制約」の可否は起動動詞の進行形や後続するVing が表す時間の逆行にあるわけではない。また、起動動詞の進行形と後続するVingの意味解釈の点からも、それらの連続が容認されないと考えられる。このような複合的要因によって起動動詞の進行形に後続するVingの生起が決定されることを主張する。

【キーワード：二重 -ing制約, アスペクト, 起動動詞】

1. はじめに

Vingを補部にとる動詞は、その動詞自体が(1b)(2b)のように進行形では生じないとされる。¹

- (1) a. They started quarrelling.
b.*They are starting quarrelling.
(Huddleston and Pullum 2002: 1243)
- (2) a. The lawn needs mowing.
b.*The lawn is always needing mowing.
(Ibid.)

(1b)(2b)におけるVingの連続は、「二重 -ing制約」によって排除される(Huddleston and Pullum 2002: 1243)。²この制約が適用される典型的な例は begin, cease, continue, start, stop などのアスペクト動詞や(2)のような潜在受動態(concealed passive)をとる動詞である。³しかし、このような構文の容認可能性については話し手によって大いに違いがあるとされる。

島本(2020)は、進行形と後続するVingの両方にアスペクトの有無を仮定し、両方ともアスペクトを有する場

合に「二重 -ing制約」が適用されると主張している。また、Vingが名詞的な性格を帯びる場合に「二重 -ing制約」が適用されないと述べている。このような主張に対し、本稿では進行形とVingの両方にアスペクトが仮定されることが「二重 -ing制約」適用の条件ではないこと、Vingの名詞性の判断が困難な場合があることを指摘し、複合的な要因によって進行形の後にVing生起が許されると主張する。

2. Vingのアスペクト

この節では、島本が主張する進行形とVingのアスペクトの有無に関係する4パターンを概観し、進行形・Vingにおけるアスペクトの有無と「二重 -ing制約」適用の妥当性について考察する。

2.1. アスペクト重複

島本は進行形・Vingにおけるアスペクトの有無と「二重 -ing制約」適用の関係を次のようにまとめている。

(3) -ing形のアスペクトの有無と「二重 -ing制約」適用の関係性

パターン	Be -ing	後続するVing	「二重 -ing制約」の適用
1	[+Aspect]	[+Aspect]	適用される(制約あり)
2	[+Aspect]	[-Aspect]	適用されない
3	[-Aspect]	[+Aspect]	適用されない
4	[-Aspect]	[-Aspect]	適用されない

* 島根大学教育学部英語科教育専攻

パターン1 (= (1b))は起動動詞と後続のVingが共に進行アスペクトを帯びており、「二重 -ing制約」が適用される。一方で起動動詞に後続するVingが進行アスペクトを欠くパターン2 (= (4))や起動動詞の進行形自体がアスペクトを欠くパターン3 (= (5)),両方がアスペクトを欠くパターン4 (= (6))では「二重 -ing制約」は適用されないとしている。⁴

- (4) But from my own experience, when I **was starting acting** in the early sixties, the director of the theatre I was working at showed me some photographs he got from women who were wanting jobs ... (NOW)
- (5) Now, could we just consider this, because you're all about seventeen which means that you'll **be starting taking** driving lessons some of you, quite shortly. (BNC)
- (6) We **will be starting racing** at the earlier time of 11:00 and we will see sailors qualify for Sunday's Medal Races as well as Paralympic racing coming to a conclusion. (NOW)

2.2. パターン2・4

島本(2020: 88)は、「二重 -ing 制約」の適用条件として後続するVingが動詞的性格を帯びていること,すなわち[+Aspect]という素性を有していることを指摘している。つまり,後続するVingが名詞の場合には,この制約は課されない(Ross 1972: 172)。

- (7) a. *He **was beginning polishing** the yoyo.
b. He **was beginning his polishing** of the yoyo.
(Ross 1972: 170)

(7a)ではVingに目的語が後続し,Vingが動詞の性格を示している。一方,(7b)のpolishingには所有代名詞が先行し,前置詞句が補部として後続するため,より名詞的性格を帯びていると言える。

次の例でも,後続するVingが名詞であるため,起動動詞が進行形であっても「二重 -ing 制約」は課されないと島本(2020: 88)は述べている。

- (8) a. Although most Orange County schools **are starting testing** this month, a few ... began in mid-March. (COCA: NEWS 2015)
b. Good. I'm **starting hiking** right now, as a matter of fact, in a half an hour. (COCA: SPOK 1999)

- (11) a. The company **began grounding** its planes last night.
b. [_{NP} The company]_i began [_{clause} ϕ_i **grounding its planes last night**].

(Aarts 2011: 229)

- (12) a. America **is entering** an economic downturn.
b. [_{NP} America]_i is [_{clause} ϕ_i **entering an economic downturn**].

(Ibid.)

しかし,(8a)におけるtestingが「鑑定」「検査」という意味である場合は名詞であると言い切れるかもしれないが、「試験」の場合には動詞的性格を帯びていると考えることも可能である。これは(8b)でも同様である。さらに,(4)でもactingを「俳優業」と考えることは可能であるが,この文脈のみからではVingが動詞に由来するものであるか本来的に名詞であるか判別することは困難である。

島本は起動動詞の進行形とそれに後続するVingの容認性に揺れが見られる例として(9)をあげている。

- (9) It is {? starting/*beginning} raining.
(Declerck 1991: 507)

(9)におけるstartとbeginに後続するVingの容認性の違いは,Declerckが指摘するようにstartがVingを後続させる傾向が強いのに対して,beginはto Vを後続させる傾向が強いからであると考えられる。通常,to VとVingの両方を補部としてとる動詞であっても,以下の例ではto Vの方が好まれるとSwan(2016)は指摘している。

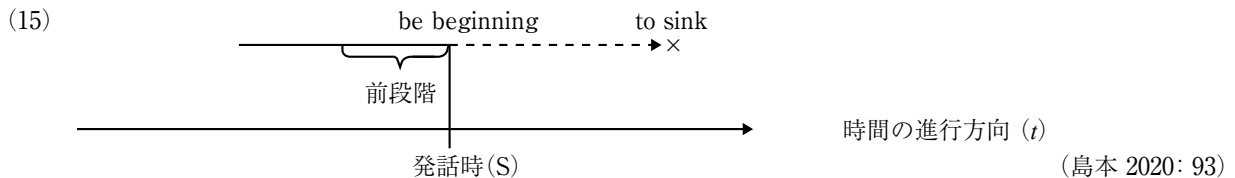
- (10) a. I'm **beginning to learn** karate.
b. *I'm **beginning learning** karate.
(Swan 2016⁴: § 105)

この場合もstartがVingを後続させる傾向が強いのに対して,beginはto Vを後続させる傾向が強いからであると考えられる。(10a)が容認され,(10b)が容認されないのは,このような動詞の性質のためである。すなわち,起動動詞に後続するVingが[-Aspect]という素性を持つことが「二重 -ing 制約」が課されない原因ではない。そのため,起動動詞はアスペクトを有しているが,後続するVingが進行アスペクトを欠くパターン2は,アスペクトの点から「二重 -ing 制約」適用条件の対象外となっているわけではないと考えられる。

さらに,起動動詞に後続するVingが[-Aspect]という素性を持つという主張に対する反証として,島本自身が引用しているAarts(2011)について考察したい。Aarts(2011: 299)によれば,(11a)は(11b)のように主語繰り上げ(subject raising)を受けた結果を表している。つまり,本来は補文の主語であったものが文全体の主語となっている。同様に進行形の場合も補文の主語が主語繰り上げの結果,文全体の主語となっている。しかし,Vingを目的語にとる動詞considerでは,buyingは直接目的語であり,主語繰り上げはなされていない。

- (13) a. He **is considering buying** a new car.
b. He_i is considering [_{clause} ϕ_i **buying a new car**].
(島本 2020: 95)

このように起動動詞に後続するVingや進行形のVingの動作主は常に文の主語と一致している。そして、起動動詞や進行相を表す第一助動詞beに後続するVingが動詞としての性質を有していることは起動動詞に後続するVingが「継続性」を持つという事実とも符合していると島本自身(2020: 95)が述べている。(11a) (12a)におけるVingに継続性を認めておきながら、(4) (6)において起動動詞に後続するVingがアスペクトを帯びていない、あるいは動詞的性質を有していないとする主張は論理的に矛盾している。Vingに先行する進行形に[-Aspect]という素性を仮定する議論については2.3.にゆずるが、起動動詞に後続するVingが進行アスペクトを欠くとする判断を基にパターン4を「二重-ing制約」適用条件の対象外であることに妥当性はないと考えられる。



しかし、この図における前段階の範囲は「沈む」という出来事の直前まで拡張されるべきである。島本が(15)のように図示する原因は、行為動詞の現在進行形における前段階性と起動動詞のそれとを混同しているからである。⁵

さらに、島本(2020: 96)によれば、(16)のような「当然の成り行きとしての未来(future as a matter of course)」は進行形の意味(「～していることになるだろう」とは解釈されず、いわば「点」として捉えられるため、時間的幅を持たない。

- (16) He **will be starting** kindergarten this fall?
—Yes. He's five. (COCA: TV 2013)

その結果、(17)のように起動動詞の進行形にVingが後続することが可能となる。

- (17) a. In Japan, Mazda **will be beginning leasing** the Demio EV from October 2012. (NOW)
b. We **will be starting racing** at the earlier time of 11:00 and we will see sailors qualify for Sunday's Medal Races as well as Paralympic racing coming to a conclusion. (= (6)) (NOW)

また、島本(2020: 98)によれば、次の例の進行形は約束・手配がすでに整っている状況を表しており、進行形が表す「前段階性」に当たる。

- (18) I'm **leaving tonight**. I've got my plane ticket.
(江川 1991³: 233)

いわゆる「～する予定である」という現在進行形の近接未来の用法である。このように、島本は起動動詞の進行形は「始まりへの近接」を表すと述べておきながら、パターン3 (= (5))における起動動詞の未来進行形はアスペクトを有していないと主張している。(14b)が沈み始めるこ

2.3. パターン3

島本(2020: 92)によれば、起動動詞の進行形は「始まりへの近接」を表す。

- (14) a. As the small boat **began to sink**, passengers panicked. (COCA: NEWS 2015)
b. The boat **is beginning to sink**. Man the pumps! (柏野 2012: 175)

(14a)では実際にボートが沈み始めているが、(14b)は「このままでは船が沈むぞ/沈むことになるぞ。ポンプで水を汲みだす位置に着け」という意味であり、沈み始めることへの近接が述べられている。島本(2020: 93)は、このような「始まりへの近接」について「進行形によって、「瞬間」が拡張され、起動に至るまでの「過程」が表される」と述べている。

島本は(14b)が表す出来事を(15)のように図示している。

とへの近接を述べており、(18)が出発という開始点への近接を述べているとすれば、(5) (17a)も当然「話し始める」「リリースし始める」という開始点への近接を表しているはずであり、起動動詞の進行形が[-Aspect]という素性を有しているとは考えられない。その結果、起動動詞の進行形と後続するVingのいずれかがアスペクトを欠く場合に「二重-ing制約」が課されないとする主張には妥当性はないと考えられる。

3. 起動動詞に後続するto VとVing

この節では、「二重-ing制約」の可否が、起動動詞の進行形や後続するVingのアスペクトに原因するわけではなく、起動動詞に後続するto VとVingの意味的特徴の違い、さらに進行形の意味解釈にあることを見ていく。

3.1. 出来事の開始点と継続

Swan (2016⁴)によれば、起動動詞begin, startは不定詞と現在分詞の両方を後続させることが可能であり、通常は意味に違いがない。

- (19) a. She began playing/to play the guitar when she was six.
b. He started talking/to talk about golf, but everybody went out of the room.

(Swan 2016⁴: § 105)
(19)におけるように起動動詞にto Vが後続する場合もVingが後続する場合も意味は同じであるとSwanは述べている。

しかし、to Vと異なり、Vingは出来事の継続を表すことが指摘されてきた(Palmer 1988²)。島本(2020: 90)も起動動詞に後続するto VとVingには異なる意味的特徴が

あると述べている。(20)においてto Vが出来事の開始点に焦点を当てているのに対し、Vingは出来事の継続を表している。

- (20) a. He **started to speak**, but was soon interrupted.
 b. He **started speaking**, and kept on for hours. (Palmer 1988²: 176)
 c. A dog **began barking**. It **began to bark first** in anger and then ... (Bates, *Poacher*)

(20a)ではto Vが用いられ、後続する下線部の内容から出来事の継続は意味されず、開始点に焦点が当てられていると解釈される。(20b)ではVingが用いられており、下線部の内容から出来事の継続に焦点が当てられていると解釈される。また、(20c)では第2文でto Vとfirstが同じ文で用いられているため、この文では出来事の開始点に焦点が当てられていると解釈される。一方で全体がVingで始まっており、第2文の‘and then ...’から全体として出来事の継続と矛盾を生じない。

to VとVingを単体として見れば、Swanが主張するように両者に意味的相違はないと思われるかもしれない。さらに、(20a)(20b)の下線部や(20c)のto V以下の情報がなければ、両者に意味的な違いはないと判断されるかもしれない。しかし、実際にto Vには出来事の開始点を意味する情報が付加され、Vingに出来事の継続を意味する情報が付加されるという事実は、to VとVingの意味的特性の違いを示していると言える。

ついでながら、Vingが出来事の継続を意味するという事実は、(11)(12)におけるようにVingが[-Aspect]ではなく、[+Aspect]という素性を有していることを支持すると考えられる。

3.2. 出来事の反復と近接性

さらに、以下の例ではVingが出来事の反復を表していると島本(2020: 91)は述べている。

- (21) a. He **began [opening/to open]** all the cupboards. (Quirk et al. 1985: 1192)
 b. ‘Oh, she’s all right now. When she’s had five or six cocktails she **always starts screaming** like that. I tell her she ought to leave it alone.’ ... ‘We heard you **yelling**, so I said to Doc Civet here: ‘There’s somebody that needs your help, Doc.’ (Fitzgerald, *The Great Gatsby*)

- (22) a. I just realised how old I am: **People stopped telling** me I look good and **started telling** me I look good for my age. (Radden and Dirven 2007: 58)

- b. started
 ×
 ●●●
 telling



(島本 2020: 92)

(21a)では下線部に示された複数形の名詞から出来事が反復して生じると解釈される。つまり、反復を繰り返すことによって、ある意味「継続性」が表されると考えられる。to Vも同時に可能であるため、出来事の反復ではなく、出来事の開始点に焦点が当てられているという解釈も可能であるが、この解釈はすべての食器棚を開ける開始点に焦点が当てられていると考えれば問題ない。また、(21b)では副詞や下線部の情報から出来事の反復が解釈される。

以上の観察から起動動詞は出来事の瞬間的な起点(「×」)を表し、後続するVingは起点から継続(反復)した出来事(●●●)を表すと島本は述べている。(22a)において起動動詞startに後続するVingは「年齢の割には見た目が良い」と人々が自分に言うという出来事が繰り返されていることを表していると考えられる。起動動詞に後続するVingが達成動詞である場合にも2通りの解釈があることを島本(2020: 92)は指摘している。

- (23) a. I was there because of Ada, but **gradually I started noticing** Swan House, too. (COCA FIC: 2004)

- b. **Coaches had started noticing** me since we won the under-14 nationals, when I first got ranked No. 1. I **started getting** letters in the mail ... (COCA MAG: 2010)

(23a)は副詞graduallyによって「徐々に気づき始めた」という継続する出来事を表しており、(23b)は複数名詞coaches, lettersによって「それぞれのコーチが注目し始めた」「何通も手紙を受け取った」のように出来事の反復と解釈される。つまり、(23a)は気づくという最終状態への近接を表しており、(23b)は気づくという行為や手紙を受け取るという出来事の反復を表している。

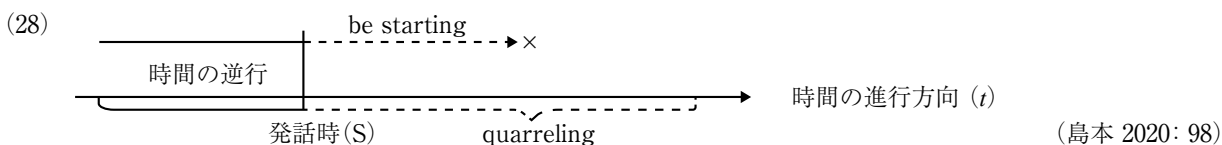
島本の論点は起動動詞start, beginにあるため、(22a)における動詞stopは対象外であるが、これも「言う」という出来事の反復が瞬間的な終結点を最後に終了したことを表していると考えられる。⁶

すなわち、起動動詞の進行形にVingが後続することを許さない要因の一つは、Vingの継続性・反復性である。to Vは出来事の開始点に焦点を当てるため、「…し始める」という意味を有する起動動詞と共起しやすい。一方で継続すなわち開始点や終結点への近接や反復の意味を持つVingは「開始」「終結」という一点を表わしている起動動詞と意味的に共起しにくいと考えられる。但し、この場合であってもVingが起動動詞に後続可能であると判断するネイティブスピーカーも少なくはないのである。

また、(10a)における起動動詞の進行形は出来事がすでに始まっていることを述べているわけではなく、Leech (2004³: 24) による推移出来事動詞 (transitional event verb) の進行形 (すなわち、起動動詞の進行形) が表す「推移への近接」を表しており、島本 (2020: 98) の言う「約束・手配」に相当する。上記の説明では、ある状態への近接である。しかし、(9) は天候について述べており、非有生の主語には約束・手配を遂行する能力がないため、start であっても容認しがたいと考えられる。

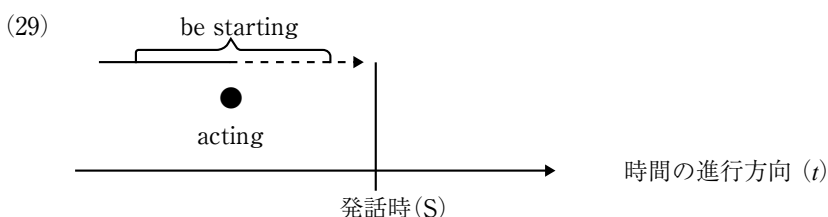
さらに、(1b) (2b) においても「二重 -ing 制約」が適用される原因は、その解釈にある。いつ喧嘩が始まるかは予測不能であり、(1b) において喧嘩状態への近接を予測することはできず、喧嘩が生じるための約束・手配も不可能である。

また、Leech (2004³: 34) やセイン (2016: 42-43) が指摘しているように進行形に always や all the time などの副詞を伴う場合、人を責めるニュアンスや繰り返しの頻度の高さ (ここから人を責めるニュアンスと同様、心配や不安といった話し手の心情がうかがえると思われる) を表すと述べている。



しかし、ネイティブスピーカーが (28) のような時間の逆行を意識しながら (1b) を容認不可能と判断しているとは考えられない。実際、継続性という概念は出来事が続いて生起することを意味するが、必ずしも発話時現在における継続を表すとは限らない。quarreling が未来における継続であれば、「始まりそうだ」という出来事の継続性と「喧嘩をしている」という出来事の継続性とのあいだに時間の逆行性は生じないからである。

島本は (4) を (29) のように図示している。しかし、この例における start を起動動詞とする場合には「始まることになっていた」と解釈されるべきであり、起動動詞の進行形によって表される開始点への近接の直後に「演じる」ことが始まるはずである。つまり、起動動詞の進行形は演じることへの近接を表していると解釈されるべきである。(29) のように解釈するとすれば、それは (30) の用法と同じであると考えられる。



(24) a. She's always complaining.
b. He's playing games all the time.
(セイン 2016: 42)

(25) a. My son is getting sick a lot.
b. My son is always coughing.
(セイン 2016: 43)

(24) では「いつも文句ばかり言っている」「いつもゲームばかりしている」といった人を責めるニュアンス、あるいは話し手のいら立ちが表されており、(25) では「いつも病気になっている/いつも咳ばかりしているが大丈夫だろうか」といった心配や不安といった話し手の心情がうかがえる。しかし、(2b) は芝生が刈られる必要性について述べたものであり、芝生が刈られることへのいら立ちや心配を表す必要性がないことから容認されないと考えられる。

3.3. アスペクト重複

島本 (2020: 98) によれば、(1b) が容認されない理由は「喧嘩をしている」という出来事の継続性と「始まりそうだ」という出来事の継続性が重複しており、「すでに起こっている出来事が今(これから)始まる」という時間の逆行性を生じるからである。島本は (1b) を (28) のように図示している。

(30) While these things were passing in the country workhouse, Mr. Fagin sat in the old den, ...
(溝越 2016: 70)

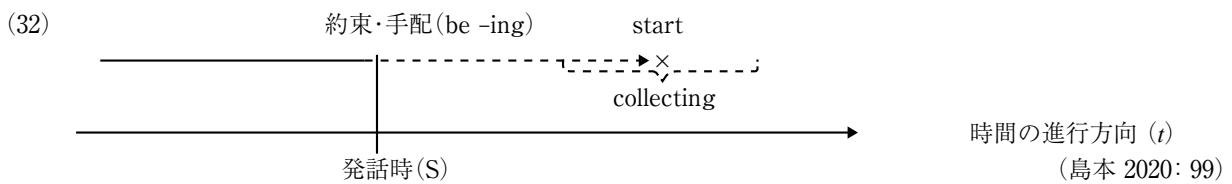
(30) の進行形は出来事の繰り返しを表しているが、(4) においても起動動詞を除いた動詞 act の進行形が用いられている場合と同様の解釈ということになる。もちろん、(29) に示されているように 1 回限りの出来事ではないはずである。(4) における動詞 start を起動動詞と解釈するためには開始点への近接と考えるべきであろう。

実際、島本は進行形が未来表現として用いられる場合には「二重 -ing 制約」が課されない例として (31) をあげている。

(31) a. “We are excited to finally **be starting collecting** data at Mars with this phenomenal spacecraft,” says Håkan Svedhem.
(NOW)

- b. The upcoming all-female DC superhero movie ... was previously confirmed to **be beginning filming in mid-January** in Los Angeles, and it has now been claimed the shoot will take around three months to complete, as it is expected to wrap in April. (NOW)

島本は(31a)を(32)のように図示している。時間幅を持つcollectingが「時間枠」を作っており、起動動詞の出来事時(×)を取り囲む解釈が可能であり、未来の一時点でデータを収集していることは時間の逆行とならないと島本(2020: 99)は述べている。実際に「始める予定であること」と「収集していること」との間には時間の逆行はない。



(33a)は「隣人たちが続々と戻り始めていること」、(33b)は「次々と種をまくこと」をそれぞれ表しており、何かを始めるという起動動詞によって表される出来事が繰り返されていると解釈される。島本は(33a)を(34)のように図示している。

さらに、島本は起動動詞の進行形に動詞としての性格を持つVingが後続するものとして以下の例をあげている。

- (35) a. We **are beginning operating** this week. We've had the formal opening of the bureau, ... (COCA SPOK: 2006)
- b. He insisted that the band will **be starting writing** new music in the coming days. (NOW)



4. おわりに

以上のように起動動詞の進行形と後続するVingの両方に[+Aspect]という素性が仮定されることが、「二重-ing制約」の適用条件ではない。起動動詞の進行形にVingが後続することを許さない要因の一つは、島本自身が指摘するようにVingの継続性・反復性である。to Vは出来事の開始点に焦点を当てるため、起動動詞と共起しやすい。一方で継続、すなわち開始点や終結点への近接や

すでに述べたように起動動詞の進行形は開始点・終結点への近接を表している。「収集していること」は起動動詞の出来事時(×)以降から継続されるべきであり、起動動詞の出来事時を取り囲むとは解釈できない。起動動詞の進行形は開始点への近接を表すと考えられるべきである。

さらに、起動動詞が「反復」を表す場合にも「二重-ing制約」は課されない。

- (33) a. Today, Green has a new house on his old street. **His neighbors are starting coming** back, too. (NOW)
- b. At Scaddan, David Campbell **was starting seeding** on Monday, taking into account the set up of his new air-seeder. (NOW)

c. I leaned against the counter and pondered as Pippa **starting piling** a tray high with glossy donuts. (Alabaster, *A Pie to Die For*)

(35a)は操業開始への近接を表しており、実際に業務が始まっていることを述べてはいない。(35b)は島本がパターン3とみなし、起動動詞の進行形に[-Aspect]という素性を仮定した例であるが、ここでの起動動詞の進行形は「書き始める」と言う出来事への近接を表しており、[+Aspect]という素性を有していると考えられる。さらに、(35c)では「積み上げる」という出来事の繰り返しが述べられている。このように起動動詞の進行形にVingが後続する場合、起動動詞は開始点・終結点への近接を表しているか、起動動詞に後続するVingによる出来事の反復を表しているという解釈に限られる。

反復の意味を持つVingは「開始」「終結」を表す起動動詞と共起しにくいと考えられる。

さらに、「二重-ing制約」の可否は起動動詞の進行形や後続するVingが表す時間の逆行にあるわけでもない。また、起動動詞の進行形と後続するVingの意味解釈の点からも、それらの連続が容認されないと考えられる。このような複合的要因によって起動動詞の進行形に後続するVingの生起が決定されると思われる。

注

1 Huddleston and Pullum (2002) は、非定形節の一つとして現在分詞と動名詞をまとめて動名詞分詞補部 (gerund-participle complement) と呼んでいる。

2 (ib)にあるように、現在分詞の連鎖はごく少数の連鎖動詞 (catenative verb) においてのみ可能である。

(i) a. We considered buying one.

b. We are considering buying one.

(Huddleston and Pullum 2002: 1243)

3 Huddleston and Pullumは、進行相を表す助動詞beが現在分詞の形をとることができないと述べ、それは「二重-ing制約」の特別な場合であると指摘している。

(i) *They accused him of being running away when the alarm sounded.

(Huddleston and Pullum 2002: 1244)

また、現在分詞は完了や受け身の第一助動詞としては用いられるが、進行相の第一助動詞としては用いられない。

(ii) a. I regret [having told them].

[perfect have]

b. I resent [being given so little notice].

[passive be]

c. *I remember [being working when they arrived].

[progressive be]

(Huddleston and Pullum 2002: 1174)

日常会話には進行相の例も見られるが、これは現代の英語において確立されたものであると述べている。

(iii) I've missed endless buses through [not being standing at the bus stop when they arrived].

(Ibid.)

そのため、(iic)におけるworkingは島本(2020)が指摘するように「継続性」を有していると考えて良いかもしれない。

4 島本は(6)を(i)と同列にみなしている。

(i) He **will be starting** kindergarten this fall ?

—Yes. He's five. (COCA: TV 2013)

5 Williams (2002) によれば、進行形では文によって表される状況が基準時以前の段階ですでに存在している。

(i) We are having a cup of tea at the moment.

(Williams 2002: 105)

(i)では現在進行中のお茶を飲むという出来事が述べられているが、実際にお茶を飲むという行為は基準時以前から存在していると考えられる。

進行形が前段階を含んでいる証拠として (ii) (iii) があげられると島本は述べている。

(ii) a. ??? Be working hard for your exam !

b. Be working hard when he returns !

(Haegeman 1982: 16)

(iii) a. *You must be singing.

b. You must be singing when my mother arrives. (澤田 2006: 480)

(iia) (iia) が容認不可能な理由は、それらが発話時に発言されているにもかかわらず、時間的に過去にさかのぼって行為の継続がなされなければならないからである。

一方、(ib) (iib)が適格であるのはwhen節によって出来事が未来に投錨され、発話時以降に前段階が存在する解釈が許されるからである。

但し、これらの例における前段階と(14b)における前段階は内容が異なっている。(iib) (iib)においては、すでに出来事が始まっており、基準時以前の前段階を述べている。これに対し、(14b)では「沈む」という出来事は始まっておらず、「沈み始める」という出来事の前段階が表されているからである。

6 同様に達成動詞の進行形も「継続」と「反復」の両方に解釈される。

(i) The queen is arriving.

(Radden and Dirven 2007: 188)

(i)では女王はお供を引き連れて移動することが当然であるので、お供の者が次々と到着しているという「反復」の解釈がなされる。一方、出来事が瞬間的な終結点へ向けて進行中であるという「継続」の解釈も可能である。Leech (2004³: 24)でもThe guests were arriving. について同様の指摘がなされている。

参考文献

- Aarts, Bas. 2011. *Oxford Modern English Grammar*. Oxford: Oxford University Press.
- Declerck, R. 1991. *A Comprehensive Descriptive Grammar of English*. Tokyo: Kaitakusha.
- 江川泰一郎. 1991³. 『英文法解説(改訂新版)』東京: 金子書房.
- Haegeman, L. 1982. "The Futurate Progressive in Present-Day English." *Journal of Linguistic Research* 2, 13-19.
- Huddleston, R. and G. K. Pullum. 2002. *The Cambridge Grammar of English Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 柏野健次. 2012. 『英語語法詳解—英語語法学の確立に向けて』東京: 三省堂.
- Leech, G. 2004³. *Meaning and the English Verb*. London: Longman.
- 溝越彰. 2016. 『時間と言語を考える—「時制」とはなにか』東京: 開拓社.
- Palmer, F. R. 1988². *The English Verb*. London: Longman.
- Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.
- Radden, G. and R. Dirven. 2007. *Cognitive English Grammar*. Amsterdam: John Benjamins.
- Ross, J. 1972. "Doubl-ing." *Linguistic Inquiry* 3, 157-185.
- 澤田治美. 2006. 『モダリティ』東京: 開拓社.
- セイン, デイビッド. 2016. 『ネイティブが教える 英語の時制の使い分け』東京: 研究社.
- 島本慎一郎. 2020. 「Be starting / beginning + Vingに関する一考察—二重 ing制約の適用条件とアスペクト性をめぐって—」『英語語法文法研究』第27号, 85-102.

- Swan, M. 2016⁴. *Practical English Usage*. Oxford: Oxford University Press.
- Williams, C. 2002. *Non-Progressive and Progressive Aspect in English*. Fasano: Schena Editore.